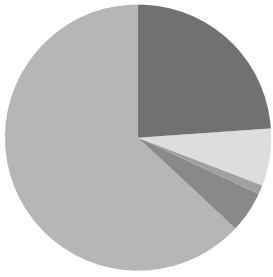


6年生の皆さんへ、5月の親睦会、いかがでしたか～？

Q1:親睦会に参加されましたか？(全100人中)



- ① 1次会、2次会双方：24名
- ② 1次会のみ：7名
- ③ 2次会のみ：1名
- ④ 不参加：5名
- 無回答：63名



〈1次会〉

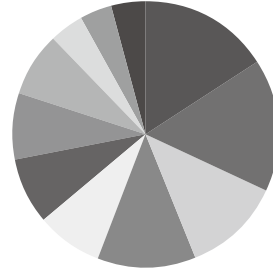
- ★・めっちゃ盛り上がった、楽しかった!
- ★・普段キリッとされている先生方が上機嫌によっていらっしやるのを拝見し、長崎がもっと好きになりました。
- ★・教授となかなか話す機会が無いので、気軽にいろいろとお話が出来てとてもよかった。
 - ・偉い先生が来られたので、皆恐縮していた。普通の1次会。
 - ・各科の教授と将来について色々話せたので良かった。
 - ・ポリクリで回った後で親しくしていただいた先生方にああいった場であえて楽しかった。
- ★・クリクラで回っているかに行くか、以前回ったかで行くかすごく悩んだ。出来ればもう少し早い時期で。
- ・テーブル席だと途中から移動しにくかった。
- ★・楽しかったが、特に目新しい事は無かった。
 - ・料理がおいしかった。
- ★・ラフな感じで楽しかったです。
 - ・委員として運営に携わったが、みんな楽しそうにしてくれてよかった。
 - ・長崎への勧誘がすごかった。
 - ・日頃なかなかお話しできない先生方と沢山お話しできて良かった。
- ★・他の先生方ともお話しできるように席替え等もあって良かったと思った。



〈2次会〉

- ・つぶれてしまった。申し訳ない。血液
- ・血液内科では、クリクラのターム中、ほぼ毎週食事に連れて行っていた。申し訳ない気持ちもあるがとても楽しかった。血液
- ★・クリクラで回っていないなくても快く受け入れてもらってうれしかったです。消化
 - ・先生方と話せてよかった。消化
- ★・2次会をする科としない科があったのは何故だろうと思った。小児
- ★・小児科の先生はとてもfriendlyで親しみやすかった。楽しかったと思う。小児
 - ・後日の飲み会まで約束してくださり、非常に楽しかった。総診
 - ・より詳しく踏み込んだ話が出来た。耳鼻
- ★・大事にいただいた先生方に、感謝を強く感じた。耳鼻
 - ・すごく楽しく過ごせました。雰囲気ややっぱり好きです。循環
 - ・クリクラを回っている途中だったのでとても楽しかった。循環
 - ・若手の先生方とも話せてよかった。循環
 - ・先生にいい所に連れて行ってもらったので良かった。麻酔
 - ・楽しかった。一内
- ★・医局の雰囲気がより分かって非常によかった。整形
 - ・無くていいかも。整形
 - ・楽しかったです。思ったより少人数でした。産婦
- ★・勧誘されるわけでもなく、将来について先生とお話させていただいて楽しかったです。産婦
- ★・やっぱり楽しかったです(^^) 産婦

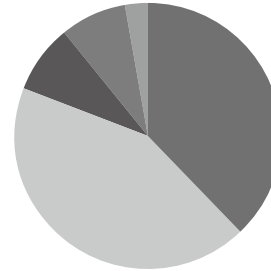
Q2:2次会で参加した科は？(全25人中)



- 産婦(4)
- 整形(2)
- 耳鼻(4)
- 眼(2)
- 循環器(3)
- 1内(1)
- 小児(3)
- 総診(1)
- 消化器(2)
- 麻酔(1)
- 血液(2)

Q3:来年度もこういう機会があると良いと思いますか？(全37人中)

- ① すごく良いと思う：14名
- ② 良いと思う：16名
- ③ どちらでもない：3名
- ④ 無くて構わない：3名
- 無回答：1名



編集長
山本 直毅 (医学部メディア部)

編集部
長崎大学医学部ぐびろが丘編集部
長崎医学同窓会
〒852-8523 長崎市坂本1丁目12番4号
☎095-848-5484
E-mail: ryojun-do@med.nagasaki-u.ac.jp

印刷
株式会社インテックス

〈編集部より：まとめ〉

今回記事にするにあたり、簡単なアンケートを配布させていただき、コメントも沢山いただくことが出来ました(掲載させていただいているのは一部です)。まず1次会についてですが、一番多かったのは“楽しかった”という事でした。日ごろ接する機会が中々ない上の先生方と気軽に話す機会を持てたという事や、普段の実習の機会では話すことのできないような事も話せたという辺りがポイントが高かったようです。しかしながら、指定のテーブル以外の先生方と接するのが難しかったということや、クリクラ中という事で何処の科に行くか迷ったという意見もありましたので、もう少し席替えの機会を設けたり、開催時期をクリクラ前などにしてみるといった工夫があればよかったかもしれません。また、目新しさ(実習中の飲み会に比べ?)が無かったという意見もちらほらあり、来年度に向けて“ココだけ!”という何か魅力を提示していければより良いものにしていけるのではないかと思います。

次に2次会についてですが、楽しかった、医局の雰囲気がより良く分かったなどの意見が多かったのですが、その反面、無くて良いかもといった意見もありました。

全体として、確かに充実していたけれど、日頃の飲み会に比べてココが!というポイントには乏しい所もあったかもしれません。しかし、やはり興味がある科が1つでなかったり、クリクラで廻り切れなかったり、日頃話をしづらい先生と話が出来たり、等々…、といったこともありますので、やはり機会が多いに越したことは無い様に思います。また、日頃の誘いを受けてという飲み会だとどうしてもハードルが高くて…という事もありますので、そういった意味でもこういう公のイベントとして親睦会があるというのは有難い事であり、また今回のアンケートの回答者37人中になりますが、こういった機会を今後も設けていってほしいという意見も多い為、来年度以降もまた続けていっていただければと思います。

最後に補足です。コメントにもちらほらありましたが、勧誘はするにしてもやや控えめが良さそうな印象です。受け手次第の所もあるかも知れませんが、その方が気楽に“今!聞きたいこと”などについて話出来るのではないかと思います。いっそのこと、日頃の飲み会や実習時にそういう事は任せてしまい(5年時に全体でのイベントもあることすし)、この機会ではそれはひとまず置いておいて、ざっくばらんに話をしてみるのも良いのかもしれない。

高次臨床実習

海外遊学記 韓国編

6年 橋本 寛史

桜のつぼみもふくらみ始めようか、春の足音も遠くに聞こえる4月の韓国、僕は首都ソウルから地下鉄で南に40分程南の郊外都市ジョンチョンのハリム大病院で実習させていただきました。

3年次にオランダに留学した際に、大体のことは適当でオッケーっしょがモットーの僕と○柳君(研修医1年目。医学は5時までやる、が最近の口癖らしい)の感想文だけ未提出でこちらに載っていないことを母にたいそう悲しまれ、今回は親孝行のためだと割り切りしっかり書くと思う。

ドイツも考えたが、志願者の顔ぶれがどう見ても僕より人生目標設定高めで、そういう人達を邪魔しちゃうくないの思いで、志願者ゼロ人の韓国は丁度良かったので、場所はどこであれ、初めての土地で社会生活を築くこと学ぶこと、ととても多いと思うので

提出書類を作成したので、3・11の年に無理に休学し、一年間宮城県の津波被災地で働いてみてそう思いました。昨年ハリムから長崎に実習に来ていた留学生チョイトとセオと仲良くなったことも大きな理由だ。5年生のポリクリ班では、吉岡さんとナダイラ君もそれぞれオランダ、ドイツに応募していて、3人で小論文、面接練習をしたのは良い思い出です、ありがとう。昨年ハリムに来ていた栄ちゃんからは多くのアドバイスももらいました、ありがとう。

オペの更衣室には吸殻が散乱していて、手術が終わるとバク先生が満面の笑みで『ピロ！一服しようぜ！』と。あんな笑顔の申し出を断れるはずもなく、強引に付き合わざるを得ない！と憤慨の念が沸き起こったが、郷に入るとは郷に従え、だ。丸眼鏡だけが大江健三郎ばりの知的な雰囲気、彼の他にも、こっちはタバコが安くて良いだの、クラブに行くならここがオススメだの、僕には全く必要でない知識を授けて下さいました、ありがとう。

でも初日に寮の案内をしてくれた同僚のヨンギ(日本語できる。後に敬意を込めてヨン様に昇格した。)とすっかり仲良くなったから、細かいことは気にしなくなつた。単にそういう国民性だと思えば気にならないう。赤信号ムシの車に轢かれそうになる、それも国民性。殴り合いの喧嘩で運ばれてくる酔っ払いがやたら多いな、それも国民性だ。



印象に残るシーンも



印象に残るシーンも

外交問題どうこうよりも、その国のひと一人と仲良くなれば色んなことが許せると思う。(韓国の名譽のためにいうと、喧嘩で運ばれるのはほとんど中国人らしい。ジョンチョンは日本という五反田のような歓楽街といふことも関係あり。ヨン様いわく、あいつらマジで常識無いわー、つかか嫌いだわー、とのこと)

韓国では奇形など先天異常があると中絶するらしい。形成外科では、日本よりもはるかに美容整形の申し出を断れるはずもなく、強引に付き合わざるを得ない！と憤慨の念が沸き起こったが、郷に入るとは郷に従え、だ。丸眼鏡だけが大江健三郎ばりの知的な雰囲気、彼の他にも、こっちはタバコが安くて良いだの、クラブに行くならここがオススメだの、僕には全く必要でない知識を授けて下さいました、ありがとう。

美容整形の手術は患者さんにとって大変だと思う。低い鼻に悩んでいる僕も、機会あれば鼻を高くして帰ろうと思ったのだけれど、痛いことが怖いので諦めた。鼻をチョコチョコキ、シリコンをゴリゴリ押し込まれて、鼻筋が青紫に変色したおぼさまの閉じた瞳からは一筋の紅い涙がこぼれ落ちる姿を見て、女性にとって美とはすなわち執念なのだ、深く感じたのでした。

あつた。Burn Center(熱傷センター。韓国随一の熱傷外科センターで、韓国全土から最重症の熱傷患者が運ばれてくる。)の形成外科医、チャン教授が顔面熱傷の再建手術の際言ったこと『このBurn Centerはアジアで最高水準のレベルを誇り、世界にも通用すると自負している。これは

高次臨床実習

ライデン大学

6年 吉岡 佐千佳

私は、2013年4月1日〜26日の期間、オランダのライデン大学病院(Leyden University Medical Center : LUMC)の眼科教室で高次臨床実習を行いました。ご指導して下さいましたMartine先生は、国際的に活躍されている眼科の教授で、お忙しい立場であるにも関わらずとても丁寧で親切な対応をしていただき、大変感謝しています。

私には、主にケーススタディ、外来診察、手術見学を行いました。ケーススタディでは、教授が最近経験した症例について、教授にオランダ語で書かれたカルテや病理診断書などを英語に翻訳していただいた後、自分で参考書や論文をもとに学習を進め、調べた結果をレポートにして最終日に提出しました。外来診察では、オランダ医師の診察の様子を見学しました。医師と患者さん

の会話はオランダ語で行われるため、医師に患者さんの情報や検査の所見を英語で要約して説明してもらいました。また、患者さんが英語で病状を話して下さることもあり、それに関して、私が問診を取るといふ形で診察に参加したりもしました。医師と患者さんは、診察の始めと終わりには握手をし、診察中も和やかに話をするなど、信頼関係が構築されたパートナーという感じでした。手術見学では、手術室で白内障や斜視に対する手術を数多く見せていただきました。術者の先生やレジデントの方が手術内容や手技について一例ずつ分かりやすく説明して下さいました。また、手術の深さを測ることができ、各手術の内容について理解を深めることができました。

滞在中、先生方や共に眼科で病院実習を行ったライデン大学の医学士達と親交を深めていくと、オランダの医療や医療教育制度、福祉保健制度の現状やそれに対するオランダ人の考えや意見を聞くことができました。その中で特に印象に残っているのは、卒業して専門医研修を受けるまでの期間、日

本のように期間や研修内容が定められているのではなく、医師は、各自で働く場所や内容、期間を自由に決めるといふことです。個人の意見を尊重するオランダらしい制度だなと思いました。

実際オランダへ行ってみると、予想していたような出来事もありました。それらを解決するためには、自分から積極的に周囲の人々に働きかけることが必要で、私の未熟な英語でどのように伝えたいのかと常に試行錯誤していた1ヶ月間でした。短い実習期間ではありますが、私にとって貴重な経験となりました。今回の実習を行いました。

うにあたって、ご尽力下さった小路武彦教授を始め、H.Bekkers 教授、Martine 教授、Luc 先生、うございました。

いぶん違うような考え方を新鮮に感じました。また、私が昼食を持って行けなかった時に、特別に入院患者さん用の昼食をいただく機会がありました。配膳室に、原材料や脂肪分、蛋白量などがそれぞれ違うパン、ハム、チーズなどのパックがずらりと並んでいて、その中から自分の好きなものを選んで食べましたが、その配膳室の光景はとても興味深かったです。

私は実習の期間、現地の学生達がシェアハウスの生活をしていました。そこで友達になった学生達と日本食パーティーを開いたり、彼らにオランダの観光場所を案内してもらったりなど、休日も楽しい時間を過ごすことができました。

滞在中、先生方や共に眼科で病院実習を行ったライデン大学の医学士達と親交を深めていくと、オランダの医療や医療教育制度、福祉保健制度の現状やそれに対するオランダ人の考えや意見を聞くことができました。その中で特に印象に残っているのは、卒業して専門医研修を受けるまでの期間、日

本のように期間や研修内容が定められているのではなく、医師は、各自で働く場所や内容、期間を自由に決めるといふことです。個人の意見を尊重するオランダらしい制度だなと思いました。

実際オランダへ行ってみると、予想していたような出来事もありました。それらを解決するためには、自分から積極的に周囲の人々に働きかけることが必要で、私の未熟な英語でどのように伝えたいのかと常に試行錯誤していた1ヶ月間でした。短い実習期間ではありますが、私にとって貴重な経験となりました。今回の実習を行いました。

うにあたって、ご尽力下さった小路武彦教授を始め、H.Bekkers 教授、Martine 教授、Luc 先生、うございました。

うにあたって、ご尽力下さった小路武彦教授を始め、H.Bekkers 教授、Martine 教授、Luc 先生、うございました。

ドイツでの精神科医療の現場を見てみたい。それが私の留学の動機でした。1学年上の先輩からお聞きした、ビュルツブルク大学での充実した日々についてのお話も、私の留学への思いを強くしてくれました。

私は1ヶ月間、精神科病院のサイコロセラピー病棟で実習をしました。精神科の病院は他科の病院とは別の場所にあります。渡航前から聞いていた事でしたが、病院での採血はやはり学生の仕事でした。私は現地の6年生と共に1ヶ月間の実習を行いました。朝の採血の本数が多い時は私も採血に参加しました。また、新患の身体診察や、入院患者の心電図判読なども医学生の仕事となっていました。私も身体診察や心電図判読を行いました。実習が進むにつれて、ドイツ語で行われている初診の様子を観た上

で鑑別診断をいくつか挙げる場面や、新患患者さんの問診を英語でとった上で鑑別診断を挙げ、医師とディスカッションする場面があったりとよい勉強になりました。

ドイツの精神科では色々な種類のユニークな精神療法が行われていました。木工や音楽療法、アートセラピー、Doグループと呼ばれる集団精神療法などがありました。各種精神療法がふんだんに取り入れられている理由について、医師に尋ねましたが精神療法も「EBCだから」という理由で積極的に利用されているそうです。また私の実習した病棟では「医局」と「病棟」という区別がなく、医師、臨床心理士、看護師は病棟の詰所や診察室に基本的に在室しているため、患者さんとは何か用事があったり、相談に乗って欲しい事がある時は詰所や診察室を

ノックすることですぐに医療者に会えるというのが印象的でした。気分が不安定な患者さんにとっては安心感があるのではないのでしょうか。多職種間カンファレンスも頻繁に行われており、病棟の医師と看護師、臨床心理士を交えて毎朝行われていました。

ただ、医療現場の情報化については長大病院の方が進んでいるように思われます。カルテは紙カルテで、サマリイだけはPCで作成していました。が、長大病院のようなカルテ記載とサマリイ

高次臨床実習

ライデン大学

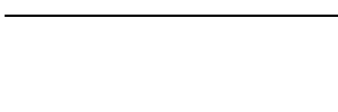
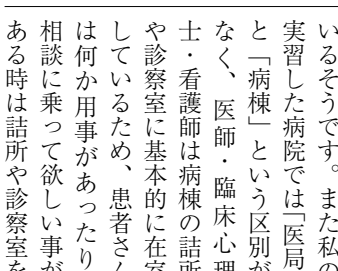
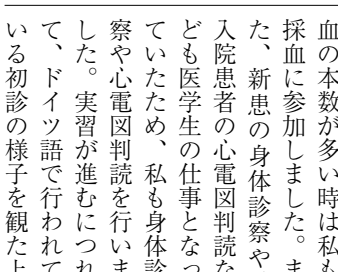
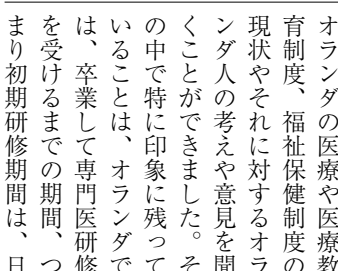
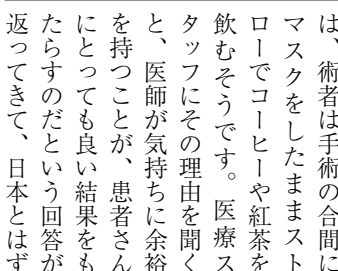
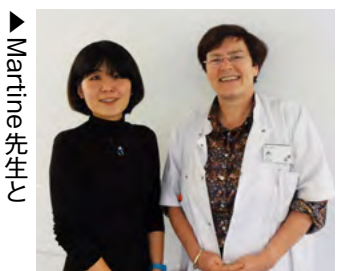
6年 吉岡 佐千佳

高次臨床実習

ライデン大学の医学士と

高次臨床実習

6年 平貴之





オーダーの電子化・一元化はされておりません。病棟でのラウンドの際も、分厚く重いカルテを持ち歩いてのラウンドは大変そうでしたし、医学生が担当患者を新しく受け持った際、最初は大変なのは紙カルテの中どこに重要な情報があるのかを探し出すことだと嘆いていました。

ドイツの医学生は6年生の時点で、採血や身体診察、心電図の判読、研修医への報告とディスカッション、その他病棟の事務作業もこなしていました。それでは研修医になったら何をしているのかというと、さらに新患の問診や入院後の治療計画の立案、カルテの記載とサマリーの作成、そして教授への報告とディスカッションなどの業務が追加されます。ドイツの6年生が日本の初期研修医と、ドイツの1年目研修医が日本の修練医と相当するレベルの業務をこなしているように思われました。ただこうしたスキル向上の速さは、休暇中を利用した自主的な

実習や、基礎研究に従事する期間が学部学生時代でないこと、初期研修医のスーパーローテーションが無いため、といった点も背景としてあるようです。

休日には鉄道バスを利用してドイツの他の街や近隣諸国まで旅行に出かけたり、ライン川クルーズを楽しんだりしました。ビュルツブルク大学卒業生の皆さんに、ピクニックに連れて行っても良かったり、私たちが感謝の気持ちを込めて日本食パーティーを開いたり、たくさんさんのイベントを通して交流する事ができました。また、長崎市とビュルツブルク市の市民友好都市提携調印式に出席させていただけ、一生に一度ともいえる体験が出来ました。

今回の留学にあたって、長崎大学の先生方や職員の方々、そしてビュルツブルク大学の職員の方々、長崎市国際課の方々、そして共に留学した友人たちにも感謝しています。ありがとうございました。

サークル紹介

準硬式野球部

こんにちは。準硬式野球部です。簡単に部活紹介をさせていただきます。野球部に興味のある方や昔から野球が好きなた方、WBCで野球にはまってしまった人や、はたまた医学部グラウンドのイケメンはだれ？って方も、とりあえず目を通されて下さい！

①活動内容

私たちが野球部は、春の九山、夏の西医体の九州選手権、秋の医歯薬リーグを合わせた年4大会を大きな目標として、月水金土の週4回、主に医学部グラウンドで練習しています。小旅行や各種飲み会(!!)も充実しており、1年生から6年生まで総勢37名で楽しく活動しています。

②大会成績

九山では5年連続決勝進出と満足のいく結果を残していますが、西医体ではなかなかベスト8の壁を超えずにいます。秋の医歯薬リーグでは昨年3年ぶりに1部優勝を逃し、今年は覇権奪回を目指しています。春の九州選手権では、全学の強豪が多数出場していますが、それでも昨年はベスト8に進出しました。

③野球部内ミニサークル紹介

私たちが野球部はなにも年から年中野球ばかり、というわけではなく、もちろん！マッスル部(筋トレ)、肉部(毎月29日に上質な肉を食らう。マッスルは無料！)、ツリーリング部(BKB!!)、釣り部(釣った魚を飲み会の肴に！)、F野教団(新興宗教集団、1つとばして温泉部(遠征後最高の銭湯へ)などなど)。練習中は真剣に、OFFのときは楽しく、をモットーに、部員同士で野球以外にも共通の趣味を楽しんでいます！

④入部希望者へ

野球経験は問いません！37人(部員31人)のうち、数名は高校野球で大変優秀な成績をおさめた部員もいる一方で、10人ほどは野球初心者で入部しており、それらが上手く融合して、お互い切磋琢磨しています。マネージャーさんや元々野球には全く興味がなかった人がほとんどでしたが、大会などを通して野球の奥深さや、部員の汗(と信じたい...)にすっかり魅了されたようで、とても楽しく活動してくれています。先日OBの先生方から、日焼け対策もばっちりです！興味のある方は是非一度グラウンドにいらしてください！！



◎第52回九州・山口医科学生体育大会結果報告

バレーボール	男子 準優勝	女子 入賞なし
バスケットボール	男子 入賞なし	女子準優勝 女子個人賞 ベスト5 川原孝美・上片さくら
卓球	男子団体戦4位 男子 シングルス ベスト8 村上直樹・大内田良真 ベスト16 山中健嗣 男子 ダブルス ベスト8 田島・山中 ベスト16 内山・塚本	女子団体戦準優勝 女子シングルス 3位 桃下有沙 女子ダブルス 優勝 岩永・桃下 ベスト8 伊藤・松尾 ベスト16 大迫・山口
バドミントン	男子団体戦3位 男子個人戦ダブルス ベスト8 金本・石川 男子新人戦シングルス 優勝 本多 ベスト8 末原	女子団体戦4位 女子個人戦ダブルス 優勝 浦壁・神田 ベスト16 森・堀 女子個人戦シングルス 3位 神田 ベスト8 浦壁 ベスト16 堀
剣道	男子団体戦 準優勝 男子個人戦準優勝 福本将之	女子団体戦 ベスト6 女子個人戦優勝 溝口千乃
空手道	男子 入賞なし	女子 入賞なし
弓道	男子団体準優勝	女子個人第三位 梅津彩香
準硬式野球		コメディカル団体四位 決勝進出
ラグビー		入賞なし
サッカー		準優勝
硬式テニス	男子団体戦3位	女子 入賞なし
ソフトテニス	男子団体戦準優勝 男子個人戦 優勝 宮崎・神田 3位 島矢・町田 ベスト16 馬場・中嶋	女子団体戦3位 女子個人戦シングルス ベスト8 高村・廣瀬 ベスト16 林・長谷川 坂田・富田
水泳	男子団体戦優勝	女子団体戦優勝
ボート	男子総合2位 男子舵手付フォア対校の部3位 男子舵手付フォア一般の部1位 男子シングルスカル2位 男子ダブルスカル2位	
ウィンドサーフィン		入賞なし
陸上	男子総合3位 男子フィールド1位 やり投 優勝 白石斗士雄 4位 三好雄朗 円盤投 2位 白石斗士雄 4位 三好雄朗 ハンマー投 3位 三好雄朗 4位 白石斗士雄 6位 岡村拓 砲丸投 2位 岡村拓 3位 白石斗士雄 6位 三好雄朗 三段跳 4位 北野峻介 走高跳 4位 白石斗士雄 走幅跳 4位 北野峻介 5位 百合野大輝 800m 2位 橋本龍太郎 1500m 2位 橋本龍太郎 4×400mR 5位 後藤-橋本-梶原-川床	女子トラック2位 100m 2位 樋口真帆 200m 3位 小川綾華 400mタイムレース 優勝 樋口真帆 2位 鎌田枝里 4位 小川綾華 3位 鎌田枝里 800mタイムレース 3位 形山・樋口・小川・鎌田 4×100mR 2位 形山・樋口・小川・鎌田 4×400mR 優勝 形山・鎌田・小川・樋口
柔道	男子団体戦 3位 男子個人戦 75kg級 4位 渡部太郎 65kg級 ベスト8 池谷千章	

《学生の声 in 目安箱》

◎医学展

A：今年は医学展の年ですね。

B：僕はこれが初めてなので、とても楽しみです！

A：そうか、4年生より下の学年は初めての医学展なんだね。

C：僕も初めてです。正直、何をやるものなのかもよく知りません（笑）

D：講演会と展示と・・・あとは部活の出店とか。

A：一年生の時にあったけど、インフルエンザで行けなかったから、実は何も知らないんよね・・・

D：そうやったね。でも、休みを謳歌するために来ない人もいるからなあ。

B：3年に一回しかないのもったいない・・・

C：初めてなだけに、けっこう興味あります。

A：Dは去年の医学展どうだった？

D：部活の露店にいたよ！

A：店員として？

D：まあね（笑）今年はどうするかは未定！

◎部活に入って良かったこと

B：縦方向の人間関係ができたことですね！

A：先輩とか後輩とか、ただ講義や実習に出てるだけでは会わなかったであろう人たちと知り合えるって、大きいよね！

B：そうです、一緒に遊ぶ上級生・下級生は課外活動でのつながりで出来る事がほとんどです。

C：部活以外でも先輩方から遊びに誘ってもらったり、食事をおごってもらったり（笑）楽しい思い出がたくさん作れてますね。

D：あとは、良き友人に恵まれたことかな。

A：同学年でも、同じ部活に所属してるって結構関係あるよね。

D：ふつうにしてると、つい同じような考え方の人とばかり関わりがちになることもあるからね。

B：でも、同じ部活にいる人とはいやでも話しますからね。

D：そう！自分と違う考え方を持った人と腹を割って話せる機会を得られる。

A：飲み会とかで特に（笑）

C：色々な人々と出会い、交わることによって、数々の貴重な経験をさせてもらってる。そして、部活の一員として自分を見つめる機会を与えてもらっている。

A：みんなホントに良いところ挙げてるけど、わざとカッコいいこと言わない??（笑）

D：ぱつと思いつくことってこんなもんでしょ（笑）

メディア部では様々な「学生の声」を募集中です。
 学生生活で日々思っていること、ぶちまけてみませんか？
 またインタビューや座談へ参加してみたいなどの要望も随時受け付けております！
 ぜひ医育支援センター前の目安箱に投函、
 もしくはryojun-do@med.nagasaki-u.ac.jp までメールお願いします！（文責：山本）

第5回長崎大学ホームカミングデーを開催いたします。

日時：平成25年11月23日（土） 場所：長崎大学文教キャンパス内
 詳細は分かり次第お知らせ致します。

メディア部 部員募集中！！

メディア部では、随時部員を募集しています！
 目安箱の記事を見てもわかるように、学生による自由な記事が書けます！兼部も勿論OKですので、興味が少しでもある方、文章を書くのが好きな方はどんどん連絡下さい！！

【総括】

創立150周年頃に始まった「対話の場」の活動に始まり、今では「メディア部」と名を変え新聞の記事編集にいそしんでおります。元々の「対話の場」ですが、私自身の理解している限りでは「学生と教員、大学との距離を近づけ、お互いの声をお互いにしっかりと届け合う」とをお手伝いさせていただくことを目的に作られた集まりでした。その活動が一段落して、結成された先輩方の御卒業後、今も学務前に置かれていた目安箱こそ作ったものの、試行錯誤をしていく中で、私たちは目標を次第に見失いつつありました。そんな時に、「受け皿を無くさない」ことを目的としてその1手段として定期的に新聞を作るという流れでメディア部を立ち上げ「ぐびろヶ丘」を復刊、数々の先輩方や後輩達、その他各方面の方々の協力のお陰をもって現在に至ります。

大病院が研修に力を入れ始めたこともあり、先生方の声はよく届くようになりまし、以前に比べ全体として良くなってきているのかなとは思いますが、しかしやはり学生の声や対話という側面ではまだまだ不十分な面もあるのではないのでしょうか？

現在はぐびろヶ丘にも諸事情により幅広い記事のせているとはいえ、先に述べさせていだいたように、対話の場から受け継いでいる根本的な理念は「対話の場であり、互いの声の発信の場であること」です。ザックランに言うならば「お互いホッネをさっさと叩いてしまっただ方がムダも省けるし、最終的にお互いハッピーになれるんじゃないか」という考えです。というわけですので、出来る限りそれに即した記事を書きたいと思えます。また、当メディア部とぐびろヶ丘が、日常の些細なことに関する声から骨のある意見まで、幅広く伝え、またそれに対するレスポンスを頂き、対話へと導いていく場として今後も機能していければと思います。

（山本直毅）

【編集後記】

今回、学生の声in目安箱の記事を担当しましたが、対話のメンバーが完全に入れ替わりまして、何かと手探りの編集となりました。本誌で最も人気の記事のひとつのお話も伺っていましたが、どのような反響があるか期待と不安もありますが、読者のみなさまに楽しんでいただけたらと思います。今後の号におきましても、より一層おもしろい記事にしていきたいと思えますので、みなさまの感想をお待ちしております。

（古賀一史）

みなさん、こんにちは。みなさんはどのような夏休みを過ごされましたか？僕は、西医体、オーケストラ演奏、家庭医療セミナーなど振り返ってみると休みは少なかつたですが、なかなか充実した休みを過ごせたなあ振り返ってます。来年の夏休みは海外一人旅に挑戦しようと思ってます。医学生はよくスリリングな場所を好んで旅行しますが、なぜなのでしょうね。

早いものでもう一年の半分が過ぎてしまいましたが、残りの半分も楽しみましょう！

（松本 学）

夏の晴れ間にも涼やかな風も吹くようになりました。あー暑いー早く終わって欲しい！……とうつつしく思っていた夏の終わりを感して少しさみしいような気もします。月日が流れるのはあつという間ですね。秋には食欲の秋を満喫しようと思えます！

（市川宏美）